

認知症の種類と特徴

アルツハイマー型認知症

約50%

アミロイドβというタンパク質が海馬等にたまることで脳の細胞が少しずつ死んでしまい、脳全体が縮んでいきます。

〈症状〉.....

- ①初期の段階からの物忘れ
- ②同じ話をする
- ③物事の段取りが悪くなる
- ④曜日が分からなくなる
- ⑤ものとり忘れ妄想



脳血管性認知症

約15%

脳の中の血管がつまったり（脳梗塞）切れたり（脳出血）したために栄養や酸素が行き渡らず一部の細胞が死んでいきます。

〈症状〉.....

- ①意欲が低下する
- ②感情のコントロールが難しくなる
- ③脳血管障害が起こる度に段階的に進行する
- ④症状にムラがある



レビー小体型認知症

約15%

脳にレビー小体というタンパク物質が蓄積されて発症します。

〈症状〉.....

- ①そこにはいない人や動物、昆虫などの幻視がはっきりとあらわれる
- ②夜中に夢を見て大声を出す
- ③初期には物忘れが目立たない
- ④パーキンソン様症状（手足の震えや筋肉の硬直）で転倒しやすい
- ⑤症状の変動が激しい



前頭側頭葉変性症

脳の中の前頭葉（理性のコントロール）や側頭葉（聴覚や言葉の理解）が縮んで起こります。

〈症状〉.....

- ①初期では物忘れなどの記憶障害が起こりにくい
- ②万引きや信号無視など社会ルールに違反することがある
- ③人格の変化が表れやすい
- ④落ち着きがなくなり、興奮し暴力をふるったりする



● パーセンテージ等は『認知症を学び地域で支えよう』全国キャラバン・メイト連絡協議会 P5 より抜粋 ●
※その他 20%

若年性認知症

18 歳から 65 歳未満で発症した認知症を若年性認知症と言います。まだ若いということで、うつ病や更年期障害など、他の病気として治療されることもあるため、認知症の診断までに時間がかかってしまうことも少なくありません。

また、若年性認知症は、働き盛りの世代で発症するため、本人の就職及び本人や家族に対しての生活支援が重要になってきます。

